

防災行政無線等の戸別受信機の標準的なモデル等のあり方に関する検討会（第2回）
議事要旨（案）

1 日時

平成29年12月6日（水）13:00～14:30

2 場所

三番町共用会議所2階大会議室

3 出席者（主査及び副主査を除き50音順）

構成員：

中村主査、高田副主査、東委員、市村委員、井上委員、臼井委員、小野田委員、桐本委員、後藤委員、櫻井委員、椎木委員、静間委員、菅原委員、高橋委員、永山委員、成澤委員、西原委員、松元委員、三市委員、山之口委員、渡川委員

オブザーバー：

総合通信基盤局 重要無線室 戸部係長

消防庁：

防災情報室 森川室長、鈴木課長補佐、城門係長

4 議事

(1) 開会

(2) 議事

①前回の議事要旨の確認

【資料2-1】に基づき、第1回議事要旨（案）の確認。

②戸別受信機の標準的なモデル及び仕様書（例）の作成

【資料2-2】【資料2-3】【資料2-4】【参考資料2-1】に基づき、事務局からの説明の後、質疑応答・意見交換が行われた。主な内容は以下のとおり。

【市村委員】：仕様書例のイメージはシンプルで良い。親局等と戸別受信機の相互接続性は、市町村合併した際、旧市町村毎にメーカーが異なる場合もあるため重要だと考える。

【中村主査】：仕様書例のイメージ（資料2－4）の中で市町村担当者の理解が難しい専門用語はあるか。

【市村委員】：せめてこのレベルは理解していただきたいと認識している。

【菅原委員】：相互接続性を要件に入れることは非常に良い。16QAM方式のデジタル防災行政無線の相互接続性について、選択呼出も可能となるよう踏み込んでいただければと思う。また、今後新設する親卓に対しては、この仕様書案の記載で対応可能になるものと考えているが、既設親卓との相互接続性についても実現可能となるよう、検討をお願いしたい。

【西原委員】：相互接続性の記述について、ARIBの規格（T86, T115）はそれぞれ担保する範囲が異なるため、書きぶりを工夫した方が良いと思う。

【事務局】：相互接続性の記述については、他の項目とは異なり親局と一体で整備する時に使うものとして記載している。

【中村主査】：相互接続性を確保するため親局側の情報開示の必要性が書かれているが、戸別受信機側の情報開示の必要性もあるのではないか。

【事務局】：戸別受信機側の情報の必要性について調べてみたいと思う。

【高田副主査】：相互接続性の記述は、無線方式が決定している場合か決定していない場合で書き分け、長い文章になるようであれば別添に掲載すれば良いと思う。

【成澤委員】：相互接続性の記述（防災行政無線システムの受注者は、受注者のシステム内において、他社製の戸別受信機が規定された動作を実施できることを保証しないとしない）について、どのような他社が参入してくるか不明なため「保証」することは厳しい。リスクなため、防災行政システムを納入できないかもしれない。また、相互接続が出来なかった場合の原因究明を、親局側と戸別受信機側のどちらで担当するかが課題である。

【事務局】：ご指摘を踏まえて検討する。

【成澤委員】：親局側の情報開示について、ARIB規格に基づくものは開示できるようにすべきと考えるが、セキュリティーに関わるものは開示できないかも

しれない。

【中村主査】：情報開示について、防災行政無線メーカーは最大限の協力をしていただきたい。

【井上委員】：一般競争入札の前提だと仕様書例がシンプル過ぎるのではないか。

【事務局】：各自治体からご提供いただいた仕様書の実例を確認したところ、戸別受信機部分はこの程度の記載のものが多かった。

【市村委員】：コードの長さ等の細かい点についても仕様書に記載する必要がある。こうした点については「地域の実状に応じて～」等と注意書きを入れると良いのではないか。

【事務局】：ご指摘を踏まえて注意書きで対応するように考える。

【後藤委員】：仕様書例についてはこの構成で良いと思う。今後、当市でもこれをコピーして調達したい。また、各市町村が自分の市町村と地域特性（沿岸部、山間部等）が似ている市町村の仕様書を参考にできるよう、地域特性毎の仕様書の記載例もあればより良いと思う。

【事務局】：実態調査で集めた仕様書の実例をもとに何か書けないか検討したい。

【渡川委員】：簡易無線も含めた相互接続性についてはどのようにお考えか。

【戸部オブザーバー】：簡易無線そのものでも相互接続性の規定はあると思うので、それに準拠する形で書ければいいと思う。

【事務局】：重要無線室から情報を提供していただき必要な検討をしていきたい。

③防災行政無線システムへの入力インターフェースの共通化に向けた検討等

【資料2-5】【資料2-6】【参考資料2-2】に基づき、事務局からの説明の後、質疑応答・意見交換が行われた。主な内容は以下のとおり。

【後藤委員】：受信すると自動で市域全域に配信される土砂災害警戒情報等については、入口部分で細分化対応が必要ではないか。また、防災行政無線の音声

メッセージはより意図が伝わるようにする観点から、肉声を用いるのが良いと思う。

【菅原委員】：当市ではすべての伝達手段で一斉送信する仕組みがあり、防災行政無線は録音した音声で放送をしている。1回の操作で一斉送信する観点からは、予めパターン化できるものについては、録音音声を用いるのが良いと考えている。

【市村委員】：当区では住民への注意喚起の観点から、普段聞いていると耳障りなキーの高い女性の音声を録音してそれを放送できるように工夫している。

【菅原委員】：防災行政無線操作卓はパソコンであるため、外部のサーバーと接続する際、お互いのソフト的なインターフェース（API）を開示してつながりやすい構成を検討してもよいのではないかと考える。

④全体を通しての意見

主なものは以下のとおり。

【高田副主査】：戸別受信機の標準的なモデルについては案が固まってきていると思う。また、仕様書についても方向性は固まってきたのではないかと考える。

【市村委員】：戸別受信機の低廉化については今後普及が進んでいくと思う。メーカーにはこちらを研究していただきたい。また、自治体の中には戸別受信機の費用をラジオ並みの価格にすることを希望するところも多いと聞いている。

【井上委員】：相互接続性を明文化することにより、多様な選択肢が生まれることは、非常に良い。既設防災無線メーカー様には、随契の機会が減ってしまうと考えるのではなく、新たな契約機会が増えると考え、市場を盛り上げていただきたいと考える。

【後藤委員】：仕様書に録音機能が残ったことについては良かったと思う。また、複数の自治体で共同発注ができれば良いと考える。

【成澤委員】：戸別受信機の低廉化に向けて、発注数が多くなるような取組を引き続き検討していただければと思う。

【三市委員】：今回の標準モデルに関しては、最も低廉化の効果が大きいという

ことで、防災行政無線同報系が対象として書かれている。情報伝達手段の多様化が進んでおり、様々なシステムを活用した戸別受信機についても、今回の標準的なモデルの考え方を反映させていければと思う。

【櫻井委員】：簡易無線は資料にも書いてあるように、音楽、チャイムの通達が難しく、また周波数を共用しているので混信という問題がある。将来的には変調方式を変更して音楽、チャイムを通し、専用の周波数を割当てることで、混信の無い安い受信機を提供できるようになるので、このようにできることを期待したい。

【静間委員】：相互接続性を明文化したことを高く評価したい。今後、自治体が仕様書を作成する際、この相互接続性の記述を削除しないような働きかけをお願いしたい。

(3) 閉会

以上